

障がいのある子どもたちもいきいきと暮らせるまちづくり事業

取組に至る背景・事業の目的

障害があってもなくても、地域であたりまえに暮らしていけるようにするために、「今この子ども達に何が必要か？」を考え、障害のある子ども達を地域で受入れていくための環境整備等の活動を行っている。これまで障害を持つ子どもの保護者のための学習会や相談機関等を紹介するリーフレットの作成を実施してきた。今度はふれジョブにより障害のある子ども達の自立を支援するとともに、障害者を支える支援者や地域住民、企業等にも理解してもらうことを目的に実施した。

事業内容

○ふれジョブの推進

障害のある子が放課後等の時間を活用し、サポーター（地域住民によるボランティア）と一緒に自分の住んでいる町の企業やお店で職業体験（ふれジョブ）をすることで、地域住民に子どもや障害のある人たちのことを知ってもらうとともに、新たな「助け合いネットワーク」を作る。

体験を通じ地域住民の理解を広げていくもので、県内では初めての試み。

○特別支援教育実践講座の開催

障害者を支援する側の課題解決のために支援者向けの学習会を開催した。

発達障害の個別のニーズに合わせた具体的な支援方法を、すぐに役立つという視点で講師を選定し、教室での指導方法、教材の活用方法を紹介した。



【ふれジョブの様子】

事業効果

ふれジョブを紹介するパンフレットやチラシ、のぼり旗を作成し、参加してもらえるサポーターや企業・お店を増やすための取組により、須坂市内3地区で実施されている。

ふれジョブという「体験」を通じ、地域社会の一員として障害のある子ども達が暮らしていく自信につながるとともに、サポーター・企業等、見守る人たちのネットワークが生まれ、障害に対する理解の促進が図られた。



【のぼり旗】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ふれジョブを須坂市全体に広げていくため、活動を継続していくほか、経験や情報を広く提供していくことで県内他地域でも活用してもらおうよう取り組んでいく。

また、今までの活動を通じてできたネットワークを活かしながら、今後、講演会、映画上映会等を実施し、より多くの市民に対して障害者への理解を呼びかけ、市民が主体となった「支援ネットワーク」の構築をめざしていく。

【選定のポイント】

「ふれジョブ」の実施と情報発信により、企業や地域住民の発達障がいのある子どもについての理解が深まり、障がい児やその家族を地域で支える取組が強化されたほか、佐久市や長野市など他の地域においてもふれジョブを行う団体が生まれるなど事業効果の広がりが見られる。

団体名 須坂発・特別支援教育を考える会（須坂市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 026-246-6061	事業費	595,661円
オフィシャルブログ http://blog.suzaka.ne.jp/kangaeru	支援金額	584,000円